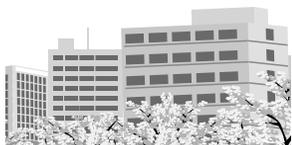


会員の広場



メフィストのいたずら

黒田 眸（東京）

ゲーテ・ファウストの悪魔メフィストフェレスは、通常は地獄で死霊を相手としているが、時には地上に出て、君主・聖人・哲人等を試してみたいと、神様に願い出て許される。手始めは哲人ファウスト。魂と引き換えに“永遠の青春”を与え、“美女狂い”にする。

フランスの音楽家デユカは、百年前、このメフィストをヒントに、戯曲「魔法使いとその弟子」を作曲した。ある青年が魔法を覚え、この世の栄華を夢見る。魔法使いに頼むと、魂と引き換えなら弟子にしよう。しかし、弟子になっても魔法は一向に教えてくれない。弟子に与えられた仕事は、毎日バケツを持ち、深い谷底へ降り水を汲み、高い山の上にある魔法使いの家の水槽へ運ぶこと。毎日、毎日が大変な重労働。弟子はすっかり疲れ果て、ある日ついウトウト。そこへ突然魔法使いが現れ、呪文（バケツよ水を汲め）を唱えた。あら不思議。全てのバケツが一斉に動きだし、谷底へ降り、山の上の水槽まで水を運び始めた。たちまち水槽は水で一杯。弟子は、これ

次の狙いは神聖ローマ皇帝。時の皇帝は大変な浪費家。財政は破綻寸前、経済・社会秩序は乱れに乱れていた。帝は重臣を集め、対策を協議させたが、名案は浮かばない。そこへ現れたのがメフィスト。悪魔は囁く、帝国の広大な国土はすべて帝のもの。そこへ埋まっている金銀財宝を見合いに紙のお札を出せばよい。重臣たちは当初はこの案に消極的だったが、ほかに名案がないため、これを採用することとした。紙の高額紙幣が大量に発行された。滞っていた国の債務は一掃され、経済・社会の秩序は回復。しかし、これは束の間のこと。紙のお札の裏付けとなる金銀が採掘されないため、紙幣の信用は一挙に失われ、大インフレ、経済は破綻し、帝は退位へと。

だ”と思った。翌日、こわごわ呪文を唱えると、バケツが一斉に動き出し、水槽はたちまち水で一杯。ここまでは良かった。しかし、弟子は“水汲み終わり”の呪文を知らなかった。水槽の水はどんどん溢れ、遂には洪水となり、弟子は溺れてしまった。いまある国では、異次元の金融緩和として、何百兆円の資金が市場に放出されている。しかし、マネーサプライはさほど増えず、市場には大量の投機資金が溢れている。株価は高騰し、円安も想定外の速さで進む。いま心配なのは、先行き必要な場合に、当局が資金の流れを制御する呪文（出口操作）をうまく使えるかどうか。もし弟子のように使えないなら、日本は投機資金の波に翻弄されてしまう恐れがある。